

さけがわ 議会だより



今日から水遊び (こまどり保育所) / 6月29日

【目次】

6月定例会 条例等議案の審議	2P
補正予算の内容	3P
臨時会審議	5P
一般質問 村政を問う	6P
委員会閉会中の所管事務調査報告	11P
東京鮭川ひめゆり会総会、あとがき	12P

VOL 121
平成28年7月13日

東京鮭川ひめゆり会 総会に出席 鮭川村の魅力を確認



6月18日(土) 第21回東京鮭川ひめゆり会総会が開催され、本村から村長、村議会議員、職員15名が出席しました。
総会・懇親会の席には年に一度の再会を楽しみにしている会員が多く集まり、鮭川村を懐かしみました。また、議員団は、鮭川村の魅力PRし更なる鮭川村と出身者の交流が長く続くよう会員との懇親を深めました。

議会日誌

- ▼4月
- 5日 保育所入園式
- 7日 鮭川中学校入学式
- 8日 鮭川小学校入学式
- 26日 最上地方議長会例会
- 29日 議長・副議長・委員長懇談会
- 30日 鮭川中学校大運動会
- 30日 鮭川歌舞伎保存会総会
- ▼5月
- 13日 村議会運営委員会
- 13日 第4回村議会臨時会
- 17日 村地区公民館連絡協議会総会
- 17日 村議会閉会中の事務調査
- 20日 村議会閉会中の事務調査
- 20日 県知事を囲む市町村自治懇談会
- 24日 町村議会広報研修会
- 25日 村議会運営委員会
- 26日 最上広域事務組合臨時議会
- 27日 鮭川小学校大運動会
- 28日 議長・副議長全国研修会
- 31日 議長・副議長全国研修会
- ▼6月
- 1日 村議会全員協議会
- 1日 最上開発協議会総会
- 7日 第5回村議会6月定例会
- 8日 山形県がみ農協通常総会
- 11日 鮭川歌舞伎定期公演
- 12日 県町村議長会臨時総会
- 16日 最上議長会例会
- 18日 東京鮭川ひめゆり会総会
- 22日 最上広域連合議会全員協議会
- 27日 最上広域連合議会

あとがき

深緑がとても眩しく、気持ちの良い季節になりました。村民の皆さんも初夏の緑葉のように、御盛栄のこととお喜び申し上げます。

6月定例会では、村民の安心、安全な生活を目的とした活発な議論が交わされ、終了したことを報告いたします。

さて、東北大震災が起きてまだ復興もままならないうちに、九州の地震、大規模な災害となり犠牲になられた方に、心からご冥福を申し上げます。一日も早い復興を祈願するものです。

当村においても、周りは山に囲まれ、中心に清流鮭川が流れる、素晴らしい環境に恵まれています。いつ起きるか分からないのが災害です。村として、危険個所の点検や調査を実施しておりますが、皆さんの大切な財産、生命を守るため小さなことでも気が付いたらご連絡をいただきたいと思います。

最後に、村民みなさんの益々のご繁栄と幸せをお祈りしあとがきとします。

(文・水戸 一徳)

議会広報調査特別委員会

- 委員長 土田 太
- 副委員長 荒木三智郎
- 委員 水戸 一徳
- 委員 矢口 健二
- 委員 荒木 京子

条例改正、補正予算等を審議

すべての議案を可決

条例改正議案

○ 鮭川村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

排煙設備の規制緩和措置

この条例の改正は、建築基準法の改正による改正。従来は、建物に排煙設備等が設けられていなければ認可されていなかった施設でも、階段設備の前に付室が設けられていれば認められることとなり、保育事業等の建物にも適用するため改正するものです。ただし、

この改正は、4階以上の建物に適用されることとなり、村内における既存の保育所施設には適用しません。



平成28年第5回鮭川村議会6月定例会が6月7日と8日の2日間の会期で開催されました。第1日目においては、条例の改正議案1件、契約の締結議案1件、一般会計及び後期高齢者医療特別会計補正予算の2件、合わせて村長提出議案3件が一括上程され、うち議案1件を委員付託しました。

また、一般質問には、6人が登壇し、7項目に関して村政をただしました。第2日目の午前中に、常任委員会を開催し、付託案件を審議。午後から本会議を開催し、追加議案1件、議員発議として調査特別委員会設置に関する決議の提出1件が提出され、慎重審議の結果、全ての議案が可決されました。

契約締結の審議

除雪機械の購入契約（除雪ドーザ）
 納期限 平成28年11月21日
 契約額 1786万3200円
 契約相手 コマツ山形株式会社新庄支店

風力発電に関する調査特別委員会を設置

議員発議による特別委員会設置の議案が提出され、可決されました。山形県では、再生可能エネルギーの普及を推進し、特に風力発電が大きな役割を占めていることから、必要な基礎データを整備するために風況調査を実施。当村においては、平成26年度に再生可能エネルギー設備導入事業への補助要綱を定め、環境にやさしいむらづくりを推進している。県の風況調査の結果が出たことを踏まえ、風力発電について調査・検討が必要として風力発電に関する調査特別委員会を設置したものです。

※平成28年度一般会計補正予算(第1号)

39,959千円を増額し、
予算総額 37億2,995万9千円に

—主な補正内容—

総務費 ふるさと応援基金積立金 △25,000千円 ふるさと納税謝礼品代等 25,000千円 情報システム事業 △553千円 過年度過誤納付還付金 196千円	農林水産業費 農業委員会費 553千円 畜産振興費 36,510千円 (畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業) 環境農業推進事業 435千円
民生費 保育士賃金等 1,539千円	消防費 下芦沢地区消火栓移設事業費 900千円
衛生費 環境衛生費 379千円	

※平成28年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

—補正内容—

保険料還付金	38千円
--------	------

補正予算の審議

補正予算に対する主な質疑応答(抜粋)

問 過年度過誤納還付金及び加算金の補正があるが、還付金と加算金の内訳がどうなっているのか。

答 千円が補正されているがそんなに壊れるものなのか。年数もたっているが、オペレーターとどうい話をし管理をしているのか。

住民税務課長 すべて還付金であります。平成23年申告からの4年分に係るものであります。

問 早くも、修繕料400

産業振興課長 マニアスプレッタは、平成17年に2台購入しております。老朽化に伴う修繕が多く、散布組合へは研修を行いながら安

問 全に使用するよう指導しているところですか。

答 修繕料が高んできている。更新も含め検討するとともに、オペレーターと連絡を密にしたいと思います。

産業振興課長 部品供給が可能な限り修繕で対応していきたいと思っておりますが、更新も含めて検討させていただきます。



報告第1号 平成27年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

平成27年度予算の一部を平成28年度に繰越して使うための予算62,140千円について、その財源や支出内容等を報告したものです。

○繰越予算の内容	住民情報システム事業(補助事業)	20,804千円
	年金生活者等支援臨時福祉給付金事業(補助事業)	17,166千円
	担い手確保・経営強化支援事業(補助事業)	2,170千円
	地方創生加速化交付金事業(補助事業)	22,000千円

第2回臨時会

…3月24日に臨時会を招集し、平成27年度一般会計補正予算を可決

平成27年度一般会計補正予算
補正予算額2201万5千円を減額補正し、予算総額を38億2952万4千円としたものです。補正内容は、補助事業の減額が主なもので、担い手確保・経営強化支援事業費補助金が減額2089万5千円となっています。また、合わせて追加議案が提出され、総額6214万円が繰越事業として可決されました。

第3回臨時会

…3月31日に臨時会を招集し、3議案が提出され可決

鮭川村条例の一部改正
地方税法の一部改正に伴い、軽自動車税に環境性能割の税率が新設され、グリーン化特例の1年間の延長やたばこ税の税率変更に伴う手持品課税適用等の改正内容です。

鮭川村過疎地域固定資産税課税免除条例の一部改正
過疎地域固定資産税課税免除期間を延長する改正内容です。

鮭川村堆肥センターの指定管理者の指定
鮭川村堆肥センターの管理・運営を有有限会社鮭川環境アグリへ指定管理者の指定をするための議決です。

第4回臨時会の開催

…5月13日に臨時会を招集し、予算の専決処分の承認、工事請負契約の締結等を可決

平成27年度一般会計補正予算の専決処分の承認
補正予算額2427万1千円を増額補正し、予算総額38億5379万5千円としたものです。

補正内容は、鮭川村を応援するふるさと寄附金が確定したため、歳入を増額し、その寄附金を原資としてふるさと応援基金へ積立てるための補正です。

鮭川村一般職の職員の給与に関する条例の一部改正
鮭川村一般職の職員給与について、これまでは
規則で定めていたものを
条例化したものです。

鮭川村定住促進住宅敷地造成工事請負契約の締結
定住促進住宅敷地の用地造成等の工事請負契約を締結し事業を実施するため、議会議決に付したものです。



(造成中の住宅敷地)

一般質問

6議員が村政に問う

6月定例会では、6議員から一般質問が事前通告され、行政全般に対する事務執行や今後の施策方針を問いただした。

▼質問者及び質問事項

土田 太議員	村民の最大の願いと想いは人口減少に歯止めを	5・・・ページ
水戸 一徳議員	ふるさと納税返礼品受委託業務の必要性について	6・・・ページ
丸山 重幸議員	村消防団組織について	7・・・ページ
矢口 健二議員	教育旅行の誘致受け入れについて	8・・・ページ
荒木三智郎議員	「ふるさと納税」の活用について	9・・・ページ
遠田 伯保議員	風力発電の導入促進に向けた評価結果について	10・・・ページ

一般質問



土田 太 議員

村民の最大の願いと想いは

村長 美肌の湯の良さを羽根沢温泉の特色として打ち出して女性客の集客促進と間欠泉源の可視化及び天然ガスの活用を追及

地域支援などの社会活動に参加する機会を設け、若手世代との交流を推進

質問 当村には、泉質で人気の高い羽根沢温泉がありますが、現在のままでは非常にもったいないと言う意見を多く聞きます。基本構想はどうなっているのか。また、村の最大テーマパークであるエコパークや鮭の子公園を見直す必要があるのではないかと思います。村民はもっと気軽に毎日利用できる公園を求めているのではないかと。

例えば、エコパーク高台に鳥海山、葉山、月山と鮭

川の平野を望みながらの温泉保養センターや、温泉にスポーツジムをつくることなどが多くの村民の方が利用できると思います。また、そこにタンクローリーで羽根沢の湯を運び、掘削した湯とを比較することにより、源泉の羽根沢温泉の宿泊客も増えることと思われま

村民が行かない所に全国の方々が来て下さるはずがないと思います。まずは基本構想を創り、夢の実現のため、未来に向けて積み立て

ていくべきと考えますが、村長の考えをお願いします。

答弁 温泉の活性化策につきましては、平成22年度に羽根沢温泉地域活性化検討委員会の検討を経て「羽根沢温泉地域活性化構想」をとりまとめました。

この中で、「美肌の湯の良さを羽根沢温泉の特色として打ち出して女性中心に集客につなげていく」とも、山形県でも貴重な間欠泉源を見せる可視化の工夫

と同時に産出する天然ガスを活用する方途を追求する。」としており、今後もこの方向で活性化を進めてまいります。

次に、鮭川村エコパークと鮭の子公園のコンセプトは、「四季折々の森林を味わう、滞在型森林公園」であり、村民や村を訪れる方に鮭川の自然の豊かさを体験してもらう場として位置づけられています。このことから、エコパークと羽根沢温泉はそれぞれ固有の役割を持っており、エコパークでは森林浴、羽根沢温泉では温泉浴としてそれぞれの良さを、それぞれの場所で体験していただくこ

とが一番良いと考えています。

鮭川村における村づくりの基本的方向として、今年3月に策定した「鮭川村まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、多様な世代が暮らしやすい鮭川村を実現することを基本目標の一つとして掲げております。この中で、高齢者が生きがいを感じて暮らしてもらうためには、地域支援などの社会活動に参加する機会を設けるとともに、若手世代との交流を推進することが重要としています。

このよう方向で、議員ご指摘の長寿むらづくりを推進していきます。



(エコパークのアスレチック)

一般質問



水戸 一徳 議員

人口減少に歯止めを

村長 順次結婚支援員を依頼し、結婚を支援
子育て支援は、人口減少対策でも重要な施策

質問 平成26年の調査で、鮭川村が全国市町村別将来の推計人口減少率が、全国の中でも高いと報道されたことから、約2年経ちました。

これといった手段でもなく、現在も年間100人前後の割合で減少しているようです。

子育て型の定住促進住宅の建設も今年度から着工し、5棟の完成に伴い、入居されることにより少しは減少対策につながると思いますが、村内には未婚の方が多くみられます。3月の議会では、結婚支援事業の

予算化、結婚支援員を置いて幅広く活動を行い、一組でも結びつけることに力を入れると言っておりましたが、支援員になられる方が決まっており、すでにその方々が活動をしているのかお尋ねいたします。

また、12月定例会では、子育て支援を十分検討し充実していくと申しうけておりますが、保育料の無料化、出産祝い金の増額については、特に重要視していただき出産に期待をもってみてはどうでしょうか。他の自治体を取り組む前に実施し、若者が住みやすく、鮭川村

に住んでみたくなくなる村づくりこそ今必要なことであると思いますが、どう考えるか。



(村内で使える応援券)

答弁 結婚支援員は5人を募集したいと考えており、6月の広報配布時に募集チラシを配布して村内から公募するとともに、応募の状況を見ながら個別にもお願いしているかと考えております。

したがって、現時点で結婚支援員に決まった人はいりませんが、応募された方から順次結婚相談員としてお願いし、活動を進めていただきたいと思います。

保育料につきましては、昨年度から第3子以降の保育料の無償化と、今年度から年収360万円未満の世帯に対して同時入所に関わらず第2子半額、ひとり親世帯に対して第1子半額、第2子以降無償化を実施しております。この結果、4月当初で125人の園児がおりますが、その約半数が支援策の対象となっております。

今後、共働き世帯が増加するとともに、昨年第3子以降を無償化したことで乳児や3歳未満の子どもの入所希望者の増加が見込まれる中で、これに対応した保育士や保育士を支える支援

員の確保が必要になります。その確保が難しい状態にあることはご承知のとおりであります。

保育料の無償化につきましては、このような課題と併せて考えていく必要がある、今後も状況を見ながら慎重に対応したいと考えております。

また、出産祝い金につきましても、昨年大幅に増額したところでありますが、更に増額すべきかどうかという点については、出生数などの程度寄与しているのかということも考慮しながら進めていきたいと考えております。

出産祝い金状況

対象者	平成27年度～		平成26年度まで	増額
	100,000円	うち子育て応援券		
第1子	100,000円	40,000円	30,000円	70,000円
第2子	200,000円	80,000円	50,000円	150,000円
第3子から	500,000円	200,000円	100,000円	400,000円

おりますし、更に、寄附者からの返礼品に対する問い合わせ、苦情、場合によっては再発送についても対応してもらおうこととしております。

村消防団組織について

村長 消防団OBや女性消防団員の入団も検討

質問 以前、消防団員不足にある地域に対しての質問をいたしました。それに対し協議して検討するとの回答を得たが、どのような結論に達したのか。また、その地域へ説明等をしたのか。

答弁 消防団における現在の考えといたしましては、団員の確保に努めているが、各地域において消防団員となり得る人材が不足していることを踏まえると、現段階では団員の負担軽減を優先に進めざるを得ないとしており、最終的には、再々再編成を視野に検討が必要とのこと。消防団は火

災の消火活動だけでなく、災害防止のための広報や指導をはじめ、不明者が出た場合の捜索活動等、地域になくてはならない組織であると考えております。

このようなことから、村も消防団と一体となり、消防団の人員確保に向け、消防団OBの方で地域内の取り組みであれば活動していた方への再入団や女性消防団員の入団も含めて進めてまいりたいと考えております。また、昨年行った地域づくり座談会におきましても消防団員不足が提起されましたので、以上の考えを述べさせていただきました。以上、よろしくお願いいたします。

ふるさと納税返礼品受委託業務の必要性について

村長 村の魅力をアピールし、生産者等の販売促進と所得向上につながる企画

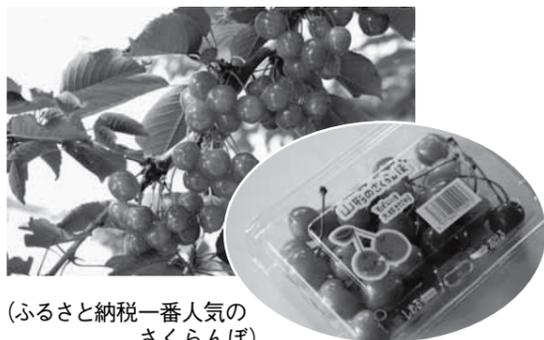
一般質問



丸山 重幸 議員

質問 県内市町村は、ふるさと納税に対する額が高い位置にあると見受けられる。わが村でも27年度は、4862件、1億2126万1100円の実績があり、今年度からは返礼品業務を民間に委託することが決まったがその内容をお聞きたい。

答弁 ふるさと納税に関する主な事務処理は、寄附金の申込受付から、寄附金振込書の送付、返礼品の調達・発送、寄附金の受領証明とお礼状の送付、納税証明等通知発送、返礼品への問い合わせ対応であります。今後、鮭川村の魅力を伝える様々なアイデア商品と企画をすることが求められることを踏まえると、ふるさと納税業務の一部について、民間の活力を活かし



(ふるさと納税一番人気のさくらんぼ)

た外部委託方式をとることが得策と判断したものであります。その業務委託の内容については、1つには、返礼品の調達及び発送業務として、村から提供する返礼品発送名簿により村が申し込みを受けた返礼品を安定的に確保し、徹底した品質管理のもと、返礼品の紹介はもちろん、村の魅力をPRできるチラシや情報誌的なものを作成し、返礼品と同封するなど、工夫を加えた発送業務を委託しております。また、返礼品の企画提案等業務として、返礼品の調達・発送業務に加え、鮭川村の特産品による返礼

一般質問



矢口 健二 議員

教育旅行の誘致受け入れについて

村長 積極的に教育旅行の誘致を推進

質問 今年3月下旬に、県は教育旅行誘致委員会の組織体制を見直し、吉村知事が会長に就き、トップセールスなどを強化する方針を発表しました。

県の教育旅行入り込み者数は2014年で12万1745人の実績のようであり、最上管内でも教育旅行の誘致受け入れをしている町村も多くあり、民泊やいろいろな体験を通じて地域住民との交流が盛んに行われています。村として、どのような考えを持っているのか。

答弁 山形県は今年3月の総会で誘致委員会を誘致協議会に改め会長に吉村知事を選任し、地域活性化と将来的な観光リピータになってもらうための誘客推進を行うとしております。

最上管内の教育旅行の状況は、最上町、金山町、舟形町、戸沢村の4町村が受け入れを行っています。最上町は観光協会が町の委託を受けて、20人位を受け入れております。戸沢村は、農家民宿の組織で、年間2、3校150人位の受け入れを行っています。

鮭川村では、荒川区の小学校2校が鮭の里親事業として、鮭のふ化や放流、雪遊び等で鮭川村を味わってもらっており、毎年約15人の児童と引率の先生が訪れております。

また、教育旅行ではありませんが、昨年度、日本生命東京本部からの参加者23人と山形支社合せて67人の参加者で、谷地地区にございます「ニッセイ鮭川の森」を核とした自然保護活動や地区との交流を行いました。教育旅行は来訪者にとっ

得ない農村生活を体験できる場となるとともに、住民との交流を通じて地域の課題を学ぶ機会となり、住民にとっても地域の魅力に気づく、良い機会となります。このようなことから、今後とも積極的に教育旅行の誘致を行うというふうに考えております。



(鮭の稚魚放流をする荒川区の児童)



(荒川区の小学生と鮭川小学校児童の交流 名刺交換)

いう形でふるさとである市町村の役に立ててもらおう等の趣旨であります。しかし、ふるさと納税の状況を見ますと、応援したい自治体を選ぶことができるようになったことから、各自治体とも自らの地域を全国に知ってもらうために、寄附金に対する返礼品の内容で自己PRするようになりま

今後は、議員からのご提案のとおり、村が実施している子育て支援や教育振興、観光振興などの政策をPRし、いただいた寄附金がそれらの施策に有効に使われていることを知らせるよう、することにより、さらに応援したい、あるいは、鮭川村を訪ねてみたいと思われるよう、取り組んでいきたいと考えています。

「ふるさと納税」の活用について

村長 応援したい、訪ねてみたいと思える施策に取り組む

質問 平成25年12月議会において、「村の魅力を活かしたふるさと納税」について一般質問させていただきました。「返礼品」だけこだわらず、村の資源を活かしたPRで村のファンになってもらえるよう、もっと推進してはという趣旨でした。

その後寄附額も大幅に伸び、平成27年度は約1億2千万円強の実績で、寄附していただいた方には深く感謝する次第です。

平成28年度からは、「返礼品」の企画・調達をアウトソーシングして、順調に推移しているようですが、一方で各自治体との「返礼品」の競争が過熱し過ぎて、総務省から注意の通達が出ていると聞きます。そこで、「返礼品」だけに特化し過



(寄附金で購入した図書)

答弁 ふるさと納税制度は、ご存じのとおり、地方で生まれ育ち、就職等の関係で都会に出た方が、ふるさとへの恩返しを寄附と

その結果として、返礼品の種類も数年前とは比べものにならないほど増え、年々豪華さと換金性のある商品まで企画され、市町村間の競争が激化し、総務省で規制、注意を促すほどになっている状況にあります。本村においても村を効果的にPRできるよう、返礼品の充実を図ることは必要と考えておりますが、金額ではなく、アイデアで村の魅力伝えていきたいと考えております。また、いただいた寄附金については、基金で管理を行い、今年度はその1千万円をエコパークの遊具設備改修をはじめ保育所設備や小・中学校図書や教材費に活用することとしております。



(人気の野菜セット)

一般質問



荒木三智郎 議員

一般質問



遠田 伯保 議員

風力発電の導入促進に向けた 評価結果について

村長 観光面に悪影響を懸念。慎重な対応と「J-Plan」

質問 平成26年9月議会において、標記の件について一般質問しましたが、与蔵

の風力発電導入促進に向けて、今年3月までに県の調査・評価の結果が出ると聞いているが、どうだったのか。また、林野庁では「緑の回廊」を設定し、県はそれを踏まえ、風車等の建設の規制緩和を含め、前向きに考えたと聞きしております。村としても、県道平田鮭川線及び、羽州湯の里線の道路整備と共に観光面においても、一日も早く与蔵峠に風力発電導入の実現

が必要と思いますが、村長の考えは。

答弁 4月28日付けで県のホームページに与蔵峠で調査した風況調査結果が公表されました。

県が、風力発電導入の検討に必要な基礎データを整備することを目的として、東北電力の鉄塔を利用し風速や風向の大きさ、それらが一定時間出現する割合等の調査を一年間実施したものでございます。結論から申し上げますと理想とされております基準と比較し

て、年平均風速では若干欠けるものの、エネルギー密度については基準に達しており、全体的には概ね良好の評価となることとなりました。

県としては、この公表結果を受けて企業が関心を持つた場合には、当該企業にデータを提示することとするとのこと。

他方、調査を実施した場所は「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」として平成15年度に東北森林管理局が認定した地域内にあり、将来的に広葉樹を中心とした天然

林を指向し、森林保全をすることとしています。また、この地域は、観光資源としても大きな可能性を持っており、まぼろしの滝や森を探検するトレッキンググッアーは、これまでに23回実施され手つかずの自然を味わう多くの人が訪れており、また、今後も新たな企画として「与蔵峠の日の出」を見るコースも検討されており、鮭川の春から秋までの森の移ろいを見に訪れてくれる方に積極的にPRを推進していく考えであります。

このような中で、仮に風力発電に係る開発事業を進めた場合は、貴重な森林資源が失われるとともに、それによって生態系の保全も損なわれる恐れもあることも考えられ、観光に悪影響が出てくる懸念が懸念されますことから、村としては企業の動向などもみながら慎重にことを進めるべきではないかと考えております。



(羽根沢側から与蔵沼への途中)

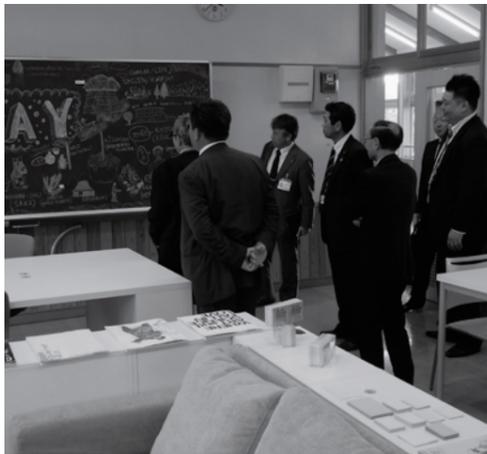
閉会中の所管事務調査報告

若者に魅力が感じられる環境整備/ 地域資源を活用した産業を生み出す工夫

調査の状況

村議会総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会が、合同で5月17日、18日の2日間、観光交流と定住促進対策について、先進的に進んでいる秋田県五城目町と横手市の取組み状況を研修し調査を行った。

両市・町ともに、人口減少に歯止めがかからず行政施策の大きな課題となっている。そのため、高齢化の進行等により地域産業の活力が低下気味になってきているという現状と課題がある中、「J-Plan」や四季を通じた観光・首都圏移住コンシェルジュの配置などで移住定住に力を入れてきた。



(廃校校舎の一教室)

五城目町では、他の行政と同じことを取り組んでいても人口減少は止まらないとし、「縁」をキーワードに、廃校校舎の活用・古民家の活用等で若者を呼び込む施策を展開している。横手市は、四季の自然や古くからの街並みを活用しながら、移住に関するコンシェルジュなどを設置し、横手市のPRと移住への支援を行っている。

調査の結果

五城目町においては、廃校校舎を活用して賃貸によるレンタルオフィスとして起業家の応援と移住定住を促進。地域おこし協力隊との連携でこれまで6社ほど入っており、申し込みが増えているため、オフィス用に増室するなど注目を浴びている。また、古民家再生プロジェクトで会員制による宿泊施設の活用により若者を呼び込み、年間で約5,000人の交流人口があり、「J-Plan」によるつながりで活気づいている。

また、横手市においては、移住定住促進の取り組みを幅広い視点で展開している。「首都圏移住コンシェルジュ」の配置などや各種支援制度など、移住定住に関する首都圏での相談体制を確立し、更には空き家情報の提供から居住環境整備まで一体となった支援を行い、移住者が増えつつある。

今回、説明を受

け財政的支援も重要不可欠であるが、移住を受け入れる環境整備が必要であり特に若者が魅力を感じられる環境、住んでみたいと言われる生活・居住環境整備が最も大切なことであると感じてきた。本村としても定住・人口減対策として、若者に魅力を感じられる環境整備を進め、地元の地域資源を活用した新たな産業を生み出す工夫とPRに努め、人口流出を最小限にとどめるなどの対策と行動が必要であると思われる。

